



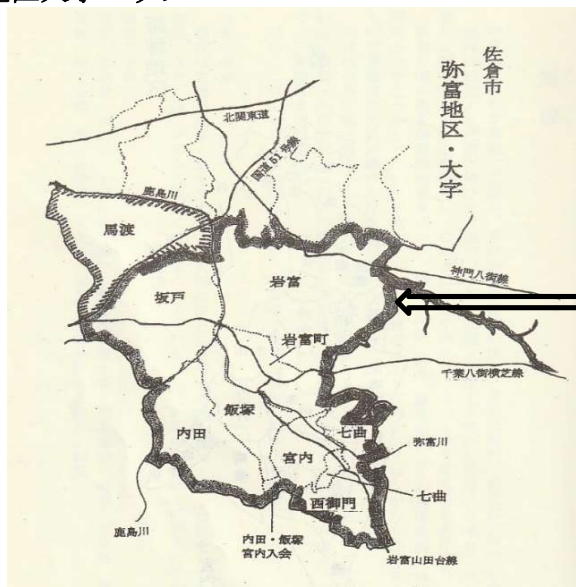
令和5年10月度第6回佐倉路地裏探検隊探索  
(岩富熊野神社・坂戸辺田道・並木交差点石仏・川村美術館等)

令和5年10月18日(水) ; 一般市民協働探索



# 佐倉路地裏探検隊

## 1. 弥富地区大字マップ



大字岩富の場所

※馬渡は、佐倉市の分類では根郷地区に含まれている



## 2. 岩富城；

かつては千葉氏一族の臼井氏が支配していた地域ですが、享徳の乱(1454)勃発した頃より弥富原氏が支配するようになった。1472年原景広が築城し、その子原胤行が城主になっていた。原氏の拠点である生実城と臼井城の間に位置する城である。1590年秀吉による小田原征伐に従った千葉氏・原氏は滅亡(秀吉が小田原城攻めて来た時山中城に籠城したが落城。自分の城の玉縄城に籠城。龍寶寺住職の説得により降伏。その後徳川家臣として下総方面の案内役として各城で説得し無血開城させた)鎌倉玉縄城主北条氏勝が岩富1万石の城主として入封した。1614年養子の北条氏重が下野富田杖に転封した為、岩富城は廃城となった。24年間で岩名城での北条氏勝、氏重2代で廃城となりました。他方臼井城は後北条氏に従ったが生実城・千葉城共々廃城。小田原城落城後、土井利勝が鹿島城を佐倉城として建て直すべく入封しました。土井利勝が佐倉城に入った頃はまだ岩富城は残っていました。因みに大正19年(1904)家康の関東入封後、酒井家次が3万石で入封したが文禄2年(1593)場内から出火し焼失。以後再建されず。酒井家次が慶長9年高崎城に転封し、臼井城も廃城になりました

### 3. 岩富城の元武家屋敷跡；

岩富城は城郭を起点に幹線を自挟んで下宿地区のⅡ郭、更に本宿地区のⅡ郭があり、下宿、本宿地区が武家屋敷跡に該当しますが、現在も大きな敷地の屋敷跡が並んでいます。1万石の城下であり、江戸に一時藩邸があるとしても、武家総勢は150~200人程。内江戸には100~130人程、残りが国元におりました。それから行くと武家屋敷の大きさは妥当なのでしょう。岩富地区やその他は農家が大半で、この規模では城下町が幹線上部のY字路の八幡神社前には「町方」というバス停がありこの付近に城下町が集約されていたのではないのでしょうか

もともと岩富村の一角に城郭を建築し城下一帯を岩富町と名付けました。岩富藩の江戸藩邸の場所は不明です。因みに、北条氏重は、岩富城（1万石）→栃木市富田城主（1万石）→袋井市 久野城主（1万石）→下総 関宿城主（2万石）→藤枝市 田中城主（2.5万石）→掛川藩主（3万石 寛永16年1639年没）何故これほど北条氏重が徳川幕府内でいろいろな藩の藩主として転封し永らえたのでしょうか？一つには父が徳川家康重臣の保科正直、母は同様に久松俊勝の娘、。元々は保科氏重になります。養父が北条氏勝であった事関係していると思われます



### 4. 松澤熊野神社；

熊野大神三川浦行幸図によれば、大同元年（806）紀州の熊野大神のご神託により、海上郡三川裏に勧請したのが松澤熊野神社の創紀とされ、天曆9年（955）にご神託により松澤荘に遷座され、総鎮守として、豊年大漁開運安産の大神として氏子は勿論、朝廷・武門の崇敬が篤く、千葉常胤が頼朝に神殿造営を願い出て、頼朝が神領として松澤荘内に用地寄進され正一位熊野神社に列せられ、その後家康から5石の朱印地を寄進された。遷座された天曆9年（乙卯）が卯年であり、それを記念して12年毎に三川浦への大神幸は有名である。御神楽は県指定民族文化財に指定されています。岩富熊野神社も直接和歌山県の熊野神社より勧請すれば良いのでしょうか、当時としては松澤熊野神社も正1位の神社なのでこちらから勧請したのでしょうか



## 5. 坂戸 西福寺とお十夜祭；

### 1) 坂戸 西福寺；

金剛山（山号）願正院（院号）西福寺（寺号）で、浄土宗鎮西派に属しています。本尊は阿弥陀如来です。西福寺縁起によると永仁年間（1293～1299）に千葉新介の千葉胤正が領内7カ所に建立した阿弥陀堂が起源。（※ **千葉西阿弥陀堂、森阿弥陀堂、星久喜阿弥陀堂、大谷阿弥陀堂、屋臺石神阿弥陀堂、仁井名阿弥陀堂と西福寺阿弥陀堂の7カ所か？**）高連社良栄上人が応永年間（1368～1374）に開山。清光寺の末寺である。地藏堂、塚5カ所（現在は3カ所のみ。33年目念仏供養塚）があった。開基を千葉貞胤とする説もある（千葉氏11代当主1292～1351）。14世紀中頃に、千葉氏の信仰から建立された。その謂れは、千葉宗家の夫人が入水他界（1177～1181）したのを弔ったと謂れている。千葉氏の加護のもとに、宗祖法然による阿弥陀仏の念仏を唱える事により、衆生が極楽浄土に行けるとの信仰が武士階級にとどまらず当地の農民をも掴み13世紀末頃に広まった事を意味します。

坂戸念仏＝踊躍（ようやく）念仏が古くから行われていた事は、西福寺が浄土宗ではあるものの、**一遍上人による時宗（浄土宗の一派）の要素が入ったものと考えられる。**

### 2) 坂戸の念仏踊；

踊躍（ようやく）念仏とも謂れています。この念仏は、浄土信仰を広める為に良栄上人によっておたされ今日まで伝えられています。現在は33年に一度開催される”大十夜”（前は平成28年=2016開催されましたので、次回は2049年です）の際に奉納される念仏踊り「あさがお」と「しもつけ」を主とした踊りと念仏が傳承されています。映像が残っていますので是非見て下さい。お十夜では境内での踊躍念仏奉納後、万灯を先頭に念仏塚迄行進し、塚の前で再度奉納されます。因みにこの三つの塚自身に何の意味があるのでしょうか？（元は五つあったそうですが）。発掘調査はされていないのでは？

### 3) 西福寺境内の銀杏；

樹高23m・目通り幹囲7.4mの雌株です（※銀杏は雌雄別株です）延享3年（1746）の「坂戸村明細帳」にも「いちやう壺本五かかえ」と記載。この銀杏は創建の前後に植樹されたと伝えられています。樹齢約650年。昭和49年10月15日佐倉市指定天然記念物です



## 6. 川村美術館 (DIC) ;

1) 概要 ; 川村喜十郎、川村勝巳ら川村家三代の収集品を収蔵展示しています。運営はDIC(株) (川村インキ(株)⇒大日本インキ製造(株)⇒大日本インキ化学工業(株)⇒DIC(株)に社名変更)。DICと関連会社が収集した美術品を公開する為、DICの総合研究所敷地内に設立、1990 (平成2年) 5月2日開館しました。ヨーロッパの古城かワインセラーを思わせる展示館で、有名な海老原一郎の設計です。コレクションに調和した建築や里山の地形を活かした緑豊かな庭園の散策路には式折々に作花々を楽しめる工夫がされています

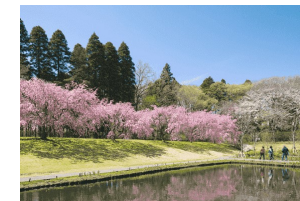
2) 美術館の特徴とコレクション ; 17世紀のレンブラントから印象派のモネ・ルノアール、近代美術家のピカソ・ブラック、現代美術のステラまで。20世紀アメリカアメリカ美術等をコレクションとしています。主なコレクションは、

- \*レンブラント : 「広つば帽を被った男」 (1635)
- \*ルノアール : 「水浴する女」 (1891)
- \*モネ : 「睡蓮」 (1907) 他

他方、平成29年(2017)12月3日をもって日本がの展示を止めました。尾形光琳、長谷川等伯等日本の近世絵画にも優れた絵画を保有していたが、この美術館の収集方針が変更され、収蔵する日本画は他に譲渡された。長谷川等伯作重要文化財の「鳥鷺図」はUSAの民間ロケットで大気圏外にとびだされた実業家の前澤友作に譲渡されました

作品収集は1970年代初頭で、彫刻家 飯田善國の助言を得て”未だ広く紹介されていなかった同時代の作家の作品や、当時ヨーロッパで評価され始めていたアメリカの現代絵画を早い時期に入手し、国内でまとめて見る機会が少なかった20世紀美術のコレクションを充実”させたようです

3) 庭園について ; 約3万坪の庭園は、かつて里山であった風景を残し、なだらかな起伏が広がっています。園内の整備にあったては在来植物を中心に景色に彩りを添える植栽を施し、野外彫刻も設置されています。美術館建設の遙か以前から自生する木々そこで暮す生き物を守りながら四季を通し気持ちよく散策が出来る環境を整えることで、自然と人が共生する場の維持に努めているそうです。四季それぞれに花が咲きますので是非おこし下さい。京成佐倉駅前・JR佐倉駅からの送迎バス(無料)を御利用下さい

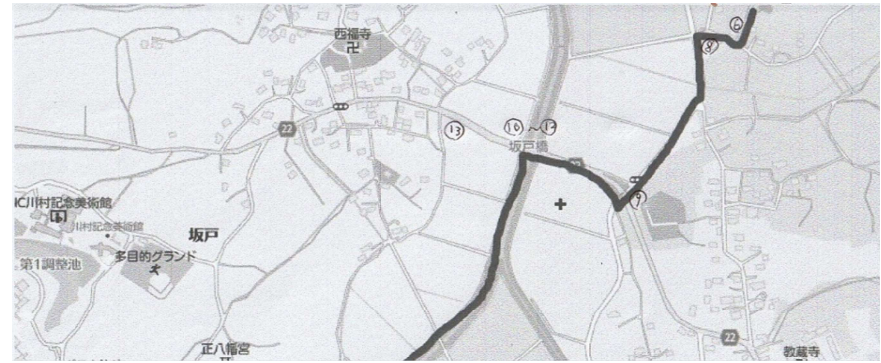


7. 散策マップ；

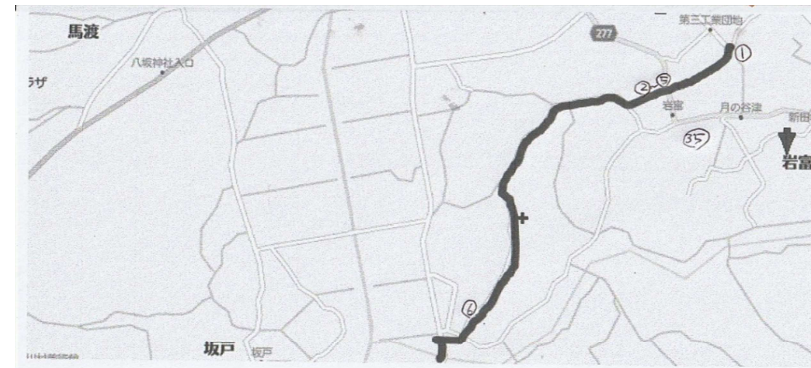


【全体コース 1】

(第3工業団地バス停→岩富熊野神社→並木交差点→川村美術館→JR佐倉駅  
→京成佐倉駅前コース)

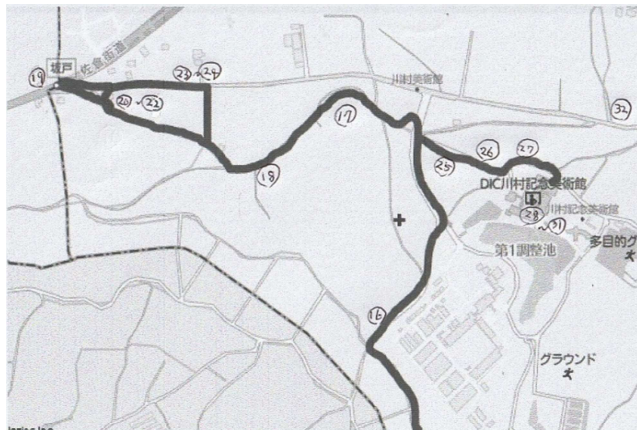


2



3

→ 4



5



6 →



## 地区スポット説明

1	2	3	4
<p><b>第三工業団地</b></p> 	<p><b>岩富熊野神社1</b></p> 	<p><b>岩富熊野神社2</b></p> 	<p><b>岩富熊野神社3</b></p> 
<p>バス終点の第三工業団地で下車し、そのまま直進し突き当りを右折し畑の中を直進してください。県道22号線に出ます。途中左折して県道を横切ると長福寺の本堂裏側に。直進し県道を渡り直進すると熊野神社方面に出ます</p> 	<p>岩富城主 原左衛門景広が、松野熊野神社(旭市)。古来より松澤荘の総鎮守として鎮座し、千葉常胤が頼朝に神殿造営を請い、頼朝が建久元年(1190)荘内6ヶ村を寄進し神領とし熊野大権現の神階を授けられた。家康も朱印地5石を寄進した東総屈指の神社である)を勧請し享徳4年(1455)創建し、岩富城の守護神としました。明治10年岩富村の村社に指定、明治43年天神社・大宮神社・道祖神を合祀しました。現在は古峯神社・権現神社も合祀されています</p> 	<p>岩富という小さな地区の割には、岩富城の守護をつかさどった神社もあり大きな神社です。本殿も大きいですが周囲には彫り物なし。少しがっかり！狛犬2基は立派なものです。岩富熊野神社を話題にする時は、旭市の松澤熊野神社も知っておかねばなりません</p> 	 <p style="text-align: center;">道祖神社と道祖神さま</p>
			

5	6	7	8
<p>狛犬</p>	<p>坂(仮称 <sup>イノミザカ</sup> 岩富坂)</p>	<p>田舎風景 1</p>	<p>県営ほ場整地事業 鹿島川上地区記念碑</p>
			
<p>左右には唐式の立派な狛犬があります「大正2年2月20日」造立で石工は「東京青山石勝刻」と土台に刻字されています</p>	<p>約11度・230m程 熊野神社の前から直進し左折して道なりに進むとこの坂に出てT字路にぶつかります。このT字路を左折し坂を上ると国道277号線の岩富バス停付近に。右折し坂を下ると又T字路になり交通の多い辺田道に出ます。国道22号線の坂戸方面に出ます</p>		<p>鹿島川支流を挟んで水田が広がりますが、台地と台地に挟まれた湿田で、作付けを初め稲刈りまで作業は大変でした。洪水も頻繁に発生し江戸時代は勿論尾事、戦後もどこ迄収穫出来るかお天気次第になります。その為戦後の食料増産が国策時には洪水を防ぎ、区画を整理しながら水管理を重点に水田整備が佐倉市農村地区で行われました。それを記念した記念碑の一つです</p>
			
			



9	10	11	12
<p>国道22号線下の学童の絵</p>	<p>鹿島川 坂戸橋</p>	<p>坂戸橋付近</p>	<p>坂戸橋際の地藏尊</p>
			
<p>上部を県道22号線(岩富～坂戸・並木交差点)と下部はQVC前を通る車両の多い辺田道になっております。そのトンネルの両側に弥富小学童が描いた絵・・</p>     			<p>像立年は慶應寺の地蔵尊で、寛政11年(1799)に富川の洪水に伴うご供養なのでしょか？</p> 

13(掛番)	14	15	16
ほ場整備と鹿島川改修事業 竣工記念碑	並木川沿い辺田道1	並木川沿い辺田道2	坂 <small>ナミキザカ</small> (仮称並木坂)
			
<p>ここにも水田整備が竣工した記念碑です。ほ場とは、水田の区画整理・農水路の整備・農道整備等が含まれている。元が深水田で田植え・農作業・刈り入れ等も腰迄使って行う事もあり、農土の入れ替えや排水作業にも力をいれ、収穫量が増加即ち食料増産を図ったものです</p> 	 	 	<p>約10度、275m程。千葉市若葉区且谷町から川村美術館に抜ける坂道です。通り慣れない坂道ですが、逆にDICの正門を右折し且谷に抜ける道です。坂名は坂戸並木交差点を念頭に名付ました。仮称です</p>  

17	18	19	20
旧道	道標1	並木交差点	道標2
			
<p>並木坂の途中で、左折し直進すれば県道22号線の並木交差点に抜ける旧道があります。たまたま試策時は旧道は草刈(高さ15cm程)が住んでいませんでした。無理に行こうとすると、この界限の整備をされている方とお会いしました。マムシがですすよ！との一声に、この旧道を通る事を中止しました</p> 	<p>県道より一本奥まった道と旧道の交差点の十字路に1基道標があります  正面には  秩父 昭和12年4月7日  三十四番供養塔 同行二十四人  正面 馬渡神門ヲ経テ佐倉方面  右面 西 並木ヲ経テ中台千葉方面  左面 東 當区ヲ経テ町方八街方面  背面 南 且谷谷當をヲ経テ下田方面</p> <p>駒形ですが、造立年は昭和12年で新しいものです。刻字された行先は四方面で、中々重要な旧道の十字路で旧道に建っている道標です。県道22号線が出来る前の旧道にあります</p>	<p>一瞬びっくりです。地蔵尊と馬頭観音が祀られていたトタン張りの社と信号したの道標がすっかり無くなっていました!!どこに移されたのか？西福寺等を考えました？</p> 	<p>角柱の御影石製道標です。御影石の為掘りづらいのと光沢により読みづらいのが難点。かつては半分土中に埋まっていた。今回下半分が土中より掘り出されたの下半分を読みましょう!!</p> <p>正面 正面 千葉市 約〇〇  右面 右 坂戸岩富町〇〇  左面 左 馬渡神門佐倉〇〇〇  背面 大正10年 坂戸青年団〇〇</p> 
	 <p>右面</p>  <p>左面</p>		

21	22	23	24
<p align="center"><b>地蔵尊兼道標3</b></p>	<p align="center"><b>馬頭観音</b></p>	<p align="center"><b>秩父巡拝塔兼道標4</b></p>	<p align="center"><b>秩父巡拝塔兼道標5</b></p>
			
<p>大きな祠の中の真ん中にあります。光背型の石像です</p> <p>正面には          正面右側には 右 成田八日市場いいぬま道          正面右側には 地蔵尊          正面左側には 左 成田なめかわかしま道          右側面には 旦谷          延享五戊辰天(1745)二月吉日 施主          坂戸村 谷當</p> 	<p>三面馬頭観音像です。右面、左面位はこの石像造立に際し費用を寄付した近隣の村名が多数彫られています。当時として珍しい三面馬頭観音。それだけこの石像は近隣の村村では名を成した有名なものであったのでしょう。設置場所も千葉街道と坂戸街道の交叉点にあったのは千葉方面、佐倉方面の講藩区なむら名です</p> <p>正面の右側には 享保三癸亥(1718)          正面には 三面馬頭観音          正面の左側には 四月吉日          右面には 木原村飯塚村上野村椎崎村當村小名木村谷當村大木村内田村〇〇村岩富町岩富村旦谷村 世話人 當村〇〇          左面には 神門村寒風村米戸村城村八木村天部村上勝田村石川村小篠塚村高崎村宮本村勝田村原村馬渡村瓜坪村上別所村直弥村六崎村 又兵衛</p>  	<p>携帯電話の鉄塔の下と県道22号線沿いに2基ありそのうち日の一つの秩父巡拝塔兼道標です。刻字された地名からみて坂戸街道と千葉街道の交差点即ち並木交差点にかつてはあったのでは？</p> <p>正面右側には 昭和24年9月3日 同行41名          正面真中には 秩父三十四番供養塔          正面左側には 南 旦谷谷當下田方面          右面には 東 當区坂戸ヲ経テ岩富八街方面          左面には 西 千葉市船橋方面</p> 	<p>正面上部には 真中に観世音供養(造字)塔 同右側には 坂東 明治7年 同左側には 秩父 4月吉日          正面下部右側には 東 いわとみ町 廿八町 正面左側には はんや村 三里二町          右面には 北 真中には さくら二丁 同右側には 馬わたし村 十二丁 同左側には 同行五十三人          左面には 南 右側に やとみ村 三十一丁 同左側には たんや村 十八丁          背面には 西 右側に 〇〇村 一り 同左側に 〇原〇ち〇〇</p> 

25	26	27	28
旧道	旧道沿いの西福寺三十三年祭の三塚	旧道	川村美術館1
			
<p>県道22号線が出来る前にはきおの脇道が幹線で岩富町、尾牛經由岩富新町・八街への道です。反対側は千葉・旦谷・馬渡への旧道になります。坂戸は新町で尾牛は旧村になります</p>	<p>「佐倉市の指定文化財」より。県の無形子弟文化財の「坂戸の念仏踊り」の際にこの三塚の周りで念仏踊りを行います。浄土宗西福寺に伝わる念仏講であり念仏踊りです。毎月9日の月次(なみ)念仏、28日の観音講、1月15日の鉦(かね)起こし、2月15日の涅槃(ねはん)講、春秋の彼岸念仏、4月15日の開山忌、8月14・15日の盆念仏・送り念仏、11月14日のお十夜、11月15日の鉦ふさぎ等がこの寺院の行事。特に三十三年毎のお十夜を大十夜といい、檀徒・総代等も加わってお練りを行い三塚の周りで「朝がお」「しもつけ」の2曲を踊る檀家も少なくなり、高齢化でいつまでこの念仏講が継続されるか疑問。最新の講は平成28年11月です。33年後とは2049年になります。皆様のご建材を祈念いたします。私達はお先に彼岸の國でお待ち致します</p>	<p>川村美術館經由尾牛への旧道の一部です。大日本インキの正門手前を右折すれば旦谷町經由千葉に出る旧道があります</p>	<p>美術館の正門がわかりづらいですね。チケットを購入後、右側の女性の立像の脇を抜けて坂を下りて行ってください。下には入場券のもぎりと事務所があります。手前事情の間を通ればすぐに白鳥が泳ぐ大きな池と池の周りには芝生が植えられています。元々は台地の下の湧水が出ていた池があり、その水は水田の灌漑用でもありました</p>
			

29	30	31	32(掛番)
川村美術館2	川村美術館3	川村美術館前ロータリー	西福寺
			
<p>1990年(平成2年)5月佐倉市の大日本インキ化学工業総合研究所敷地内に開設されました。創立者の川村勝巳は同社2代目社長で、個人的に一人絵と語らう時間でしたが、やがてその遊びを人々と分かちあいたという思いから美術館構想を抱き、作品収集を本格化し始めました。近代日本で余り紹介されていない作家やアメリカの現代作家等20世紀作家の作品を収集している。江戸時代の屏風等は売却し、現代作家の作品の収集費に充当されています。建物は戦後モダニズムの建築家でかつ第2代社長の勝巳の盟友である建築家海老原一郎氏のデザインである</p>			<p>山号が金剛山、院号が願正院そして寺号が西福寺です。浄土宗鎮西派に属し、清光寺の末寺ご本尊は阿弥陀如来です。永仁年間(1293～1299)千葉新介胤正が領内7カ所に阿弥陀堂を建立したのが起源と謂れています。高連社良栄上人が応安年間(1368～1374)に開山したと謂れています。明治7年には弥富尋常高等学校の坂戸分教場が寺院内に設けられ明治41年まで併用されていたそうです。鐘楼の下付近には埋墓(うめばか)がまだ残っています</p>
			

33(掛番)	34(掛番)	35(掛番)	36(掛番)
大十夜1(坂戸の念仏講)	大十夜2(坂戸の念仏講)	岩富 長福寺	飯塚 長国寺
 <p>大十夜では、開山した良栄上人像の輿を奉じ、約200人程のお練り行列が十夜山(念仏塚)迄練り歩きます。城・ピンク等のチリシの花笠(餅車)、錫杖(錫杖)、寺侍、仏旗、供え物、輿、導師、檀徒、万燈、囃子(はやし)方、念仏踊り衆の順</p>			
<p>に列長約130mに亘る大行列が西福寺山門・川村美術館前・念仏塚に向かいます。念仏塚では、菱栄上人の輿を塚上に祀り、その前で法要と踊り念仏が行われます。「あさがお」という法眼と呼ばれる音頭取を中心に、円形でで扇を手に踊ります。「しもつけ」は方形で踊り、採り物はありません。唄の中に「極楽浄土の門を念仏で押し開く即身成仏南無阿弥陀仏」とあり、合掌で締めくくる。本来の修行念仏の携帯を残しています。なお「あさがお」「しもつけ」をおどるのは大十夜のみです。33年毎です。次回は2049年の秋です。残念ながら存命はしていません</p> 	 	<p>勝興山長福寺 日蓮宗 岩富城主原左衛門尉景廣が平賀の本土寺9世妙高院日意上人の説法を受け、享徳年間(1452~1455)に帰依し、<b>原家の菩提寺であった願正院西福寺を日蓮宗に改めて坂戸に移転させ、文明2年(1470)に長福寺を創建して原家の菩提寺にした。</b>梵鐘は元禄7年(1694) 鑄造されたが現在は下ろされている。佐倉市の指定文化財です(令和元年の台風で鐘楼が倒壊)現在は寺で保存しているのか?</p>  	<p>飯塚地区の幹線沿いにあり、山号は常照山。大網白里の正法寺(しょうぼうじ)の末寺です。この正法寺は日蓮宗の関東における三大壇林の一つ(多古の日本寺=中村壇林、匝瑳市の飯高寺の飯高壇林)の小西壇林です。本堂は寛文4年(1664)幕府より寄贈された東金御殿を寛文11年移築されました。飯塚のこの長国寺には釈迦堂の中に<b>衣冠束帯の30番神</b>も祀られています。法華經(日蓮宗も同系列)で法華經を毎日交代で守神様です。<b>岩富城主原左衛門景広(僧名;朗真)</b>を開基で長福寺の開基と同一人物。長福寺の創立17年後、景広の次男 原長国(法名;智照院日従)が長享元年(1847)開山しました</p>  

37(掛番)	38(掛番)	39(掛番)	40(掛番)
<p>岩富から岩富町への裏道</p>	<p>岩富城跡、虎口と浅間神社</p>	<p>旧弥富小学校内炭焼き釜</p>	<p>岩富町から岩富への裏道入口2ヶ所</p>
			
<p>岩富の台地と岩富町の台地の間下には鹿島川の支流を真ん中に水田が広がっています。この間を歩き来する道は弥富郵便局上部からと岩富城向かい側から逝ったん窪地を下りて上り岩富町の高台にある広大な畑地の中の道を行くと二つの道は畑の中で合流し更に畑の中をくねくね曲がりながら坂道を下って行くと左側に道標があり、支流を渡って岩富からの幹線に出られます。考えてみると岩富城時代には郵便局より下に武家屋敷、反対側は八街道で農家や畑地が続きます。白井城同様千葉一族の原氏が城主で弥富原氏は北条方についたが天正18年(1590)滅びました。その後北条氏勝が岩富城主として1万石の大名になりました(氏勝の用紙氏重が慶長18年下野國富田に転封され岩富城は廃城。この小藩の武士達はどのようにして岩富の台地に出て神門経由佐倉城と行き来したのでしょうか？</p>	<p>主郭の跡に浅間神社があります。創建年代は不明。外の狛犬等は新しいものです。本殿にあたる建物の中の神社関係点で少しは時代が読み取れるものがあるかもしれませんが、明治維新の社格制定に際しては無格社とされましたので、幕末期の創建では？この岩富城址も平成時代までは民間の畑地でした。それを佐倉市が買上した？台地の縁の段差を有効利用した城郭でその前の幹線沿いに広大な武家屋敷跡が並んでいます。佐倉藩の武家屋敷から判断しても千石相当の武家屋敷？1万石の藩の割には敷地が広いですね。北条氏重が栃木市の富田陣屋(富田城)に転封された時、どれだけの武士が富田藩に移ったのか疑問です。この武家屋敷に住んでいた武士が下野し、商人として鮭子の魚肥、干し魚等で成功した人も居られます(佐倉藩では佐倉炭として藩で一括購入し独占的に高級品の茶席用炭として江戸で販売していました)但し岩戸藩が廃城になり、その後は佐倉藩に吸収されたので・・</p>	<p>旧弥富小学校校舎を有効利用して昭和59年当時の小学校PTAが中心となった弥富民族資料収集委員会が収集した資料等を展示していました。明治6年に岩富・坂戸・内田小学校が社寺を利用して開校されたが明治41年岩富尋常高等小学校が設立されたあと、昭和29年に佐倉市誕生に伴い弥富小学校と改称し誕生。昭和30年に現在地に移転しました。逆算するとこの後者は昭和3年新築されたもので95年経ちます。佐倉市の有形文化財に指定されていないのは不思議ですね。敷地内に炭焼き小屋と炭焼き釜が保存されています。江戸時代には主にクヌギを原料とする佐倉炭は非常に上質な炭で茶道等に広く販売されていた。その生産地の一つが弥富地区である。「弥富」は地区名で岩富・岩富町・西御門・七曲・宮野内・飯塚等を総括した弥富地区と称し、岩富はその中の一地区に過ぎません。</p>	<p>1カ所は、岩富城社反対側の脇道ともう一つは、坂の一番上の元吉田酒店手前の脇道から岩富町の台地上の畑の中の道を曲がりながら行くと、この二つの脇道が合流して台地の下に入ったん下り、鹿島川の支流を渡って、改めて岩富の台地を上り第三工業団地方面に出る方法。他には県道22号線を更に進み赤松と神田西組バス停から岩富町の台地下の辺田道を八街市境を辿りながら第三工業方面に出る方法もありますが遠まわりになります。岩富と岩富町は台地を異にし、余り行き来が少なかったのか幹線道路も少ない。岩富城を起点とした場合、何故幹線道路が少なかったのか非常に知りたい処です。それでないと多寡が1万石の小大名の藩ですが、かつては鎌倉地区の藩主であった北条氏勝が城主の城下町としては余りに小さな城下にすぎなくなります</p>
	 	 	